

2019年
年頭のあいさつ
松丸一雄 委員長

東京土建の仲間の皆さん、ご家族の皆さん、新年あけましておめでとうございます。常日頃から組合の諸活動にご協力いただき心から感謝いたします。昨年、秋の拡大月間では大変厳しい取り組みでしたが、東京土建全体として目標を達成することができました。仲間の皆さんの昼夜を分かたぬ奮闘にあためて御礼申し上げます。建設産業は大きな転機を迎えています。国の基幹産業でありながら、他産業と比べ極めて遅れた労働条件が長期間放置されてきました。少子化が進む中、建設産業は若者から選ばれない産業となり、深刻な後継者不足になっています。危機的状況に行政や業界団体、セネコンは設計や業務単価の連続引き上げ、社

建設業の大きな転機の中 働く者の立場で奮闘

いなど、昨年の前進を確信にさらに推し進めます。最後に、2019年が仲間の皆さん、ご家族の皆さんにとってよい年であることを祈念しまして新年のあいさついたします。

進、改善に積極的に取り組んでいます。一方、7年目に入った安倍内閣は大企業・アメリカ優先、圧倒的な国民の生活を切り捨てて暴走政治を続けています。東京土建は社会保障の切り下げ、消費税の10%引き上げ、憲法改悪など悪政を許さず、国民本位の政治実現のためにたたかいます。また10連勝の建設アスベストのたたかい、五輪現場を中心とした労働条件改善のたたかい



松丸一雄委員長



「辺野古新基地建設絶対反対」などと叫ぶ参加者

辺野古止めよう 市民2800人国会前で

12月14日に辺野古新基地建設への土砂投入、18日には27兆円超の中期防衛力整備計画を閣議決定するなど暴走を続ける安倍政権。12月19日、国会議員会館前で、2018年最後となる19日の総がかり行動が行なわれ、2800人東京土建は49人が集結しました。市民、共産、国民民主、立憲民主の国会議員の連帯のスピーチの後、主催者を代表して憲法共同センターの小田川義和さんは「国会での改憲案の論議を提示もさせなかった

のは運動の成果と確信にしたが、同時に働き方改革、入管法改悪も止められなかった事実などを1年間の締めくくりとして率直にみたい。暴走政治を止めるには共闘が重要だ。来年前半の選挙では、市民と野党との共闘で政治を変える奮闘をしていこう」と話しました。

参加した佐藤三三さん(新宿)は「沖縄県民が基地建設反対でがんばっているのに土砂投入するとはけしからん。安倍政権に対して怒っている」と話していました。



クボタ東京本社前でシュプレヒコール行動参加者



最高裁前でチラシを配る原告の宮島さん

をしない。訴訟が最高裁にあがった今、再度クボタに真摯な謝罪と協議の開始を強く要請する」と述べ、原告の宮島共同代表は「話し合いに応じてください。クボタが謝罪するまでたたかいます」と厳しい口調で訴えました。

スベスト訴訟全国連絡会の清水事務局長は「建材を使った私たちの仲間には一言も謝罪クボタへの行動では建設ア



御茶ノ水駅頭で訴える遠藤さん

「赤紙」配り平和を 御茶ノ水、マリオン前で宣伝

12月8日は大日本帝国が真珠湾を奇襲攻撃し、連合国との無謀な太平洋戦争に突入した日です。再び戦争をさせない「平和憲法を改悪させない」「核兵器をなくせ」との思いをこめて、東京土建主婦の会も加わる全国、東京の母親大会連絡会の女性たちには有楽町マリオン前と御茶ノ水駅頭で召集令状である赤紙を模したチラシを配りながら、9条改悪させない3000万署名と核兵器廃絶を求め署名を訴えながら宣伝行動を行ないました。

御茶ノ水駅頭でのリレートークでマイクを握った東京土建主婦の会の遠藤知子副会長は、原水禁世界大会に毎年千羽鶴を献納している活動や新宿駅頭で行なった「9条守れ」のシール投票や署名行動を紹介しながら、「戦争も核もない平和な日本を子どもたちに手渡していきたいと思います。町田支部から行動に参加した君塚徳子さんは「地元でも宣伝していますが、御茶ノ水での宣伝は初めてです。税金は、とんでもなく高額な武器を買うのに使っているのだから、国民の生活をよくするために使ってほしい」と話していました。

建設アスベスト

拒否企業に対し抗議

早朝から最高裁前で宣伝

「ぜひチラシを読んでください」と最高裁判所に入る職員らに、「原告全員救済の審理と判決を」と書かれたチラシを手渡します。

この日は早朝宣伝後、被告企業への抗議と連続行動でした。午前10時には京橋トラスタワーにあるクボタ、正午には秋葉原UDXにある日鉄ケミカル&マテリアル前で抗議行動を約3000人で実行。この2社は、裁判での厳しい審判にもかかわらず、原告側との話し合い、要請を一切拒否する態度に固執する企業です。

ハンセン病から学ぶ 母親大会参加の杉本さん



立川で開かれた東京母親大会

【台東・主婦・杉本郁代記】東京母親大会は12月9日、立川市で開催され、1380人(東京土建は240人)が集いました。午後、私は見学分科会に参加し、東村山市の多磨全生園というハンセン病療養所に行きました。バスの中で講師や元患者さんの話を聞き、この病の問題は今も続いているのだと考えさせられました。知覚障害になり、皮膚も侵される病気で、国策の「らい予防法」により薬で治るとわかっていても強制隔離は続き、廃止されたのが平成13年。園内の生活は想像を絶するもので、一生出られず、実名も名乗れず、子も産めず、亡くなくても故郷の墓に埋葬してもらえない…。国民は恐ろしい病気だと信じ込まされ、偏見と差別が続いたのです。政府がうまく改悪しようとしている動きも何か通じるものがあると感じました。私たちはまた洗脳されるのでしょうか。人権を心に問いかけることが大切です。